

の同參會の席上で何とかする様幹事の方には通報連絡した、四十余日に渉る巡教中十月十三日室蘭の御借僧先き近くにて、既に御遺骸は上り茶毘に附して歸られた事も承り、まだ上らぬ遺骸も澤山あるのにせめてもと安堵の胸を撫で落ろし、遙かに不幸中の幸と合掌申上げたのであつた。惟ふに北海道は從來台風には絶対的に迄縁なき物と今迄の開拓入殖者一同は放任し安心観もあり油断もあつた様である、處が今度の十五號台風は農作物はおろか果樹園藝を始め、山野の林木は盡く逝つて終つた、田畑作物は又來年と云ふ年次はあるが林檎や櫻桃乃至は倒潰林木はまづ一生一代の災難である。岩内町の大火も確かに特ダネニユニスであつたが、世紀の大海難事件としての洞爺丸に全人氣を奪れて終つた形である、噫呼惨しい哉。

一千二百有餘ノ靈。 忽テ化ニ海中惡鬼ノ靈ト  
十五ノ業風何ノ所作ゾ。 教ニシム人ヲシテ 萬世弔ハ精靈ヲ。 聳。

### 桑山良晃君の死を痛む

可睡齋後堂 鬼 頭 觀 梁

此の有爲の青年僧を亡したことは返す返すも残念だ、私が可睡齋へ安居すると間もない一日非思量の境地を問はれたから、それは只管打坐の當所であると答へ専ら參禪せられるよう勧めた。其後僅か十五日間位過ぎた朝突然送行を願はれるから、私は自坊に何か要件でも出来たかと云へば、實は師僧が獨りで苦しい經濟をやつてゐるから氣の毒に思い自分も教員にでも成つて師僧の經濟を助けたいと思ひます。兄弟があり貧寺ゆえ可睡に安居して、おれはいつ迄も親の膺嘯りだからとのこと、所謂獨立の生活を立ようと云ふ精神だ。

私はこれを聞いて孝道心に感心した。左様な理由ならば止むえぬ實は可睡齋も今後は坐禪を専門に人材を打出したいから君のような道心家に居て貰いたいが致方ない『日下挑燈萬松嶺水中捉月古澗溪莫忘門外送君處芳草野花路欲迷』此の偈を呈して別れたが、今思ふと宗風地に隨た今日此の青年を失つた事は誠に宗門の損失である。噫

### 追悼記

逗子市沼間海寶院主 畑 忍 定

二十五年駕願船。隨波逐浪掉學汀。莫言身跡既過去。月在蒼天不在瓶。心身得萬藏慈雲。傾心頭孝行親仁。幻化色身學域托。得寒苦未發薰香。面接眞情兄弟思。學事英敏寒梅枝。想起心胸悅學秀。可借成均他界移。一別相思善容姿。寒梅開花自力嬉。欲問遠友海底去。千辛萬苦成學遺。精光諦進如晴天。天祐明月照流川。學勵得實遺自力。鐵心堅固行道鮮。得親情二十五年。丹心學道水泡隣。洞爺遭難時難逃。不知我淚到重泉。生存心頭道情濃。學事英敏立高峯。行道得達失正德。洞爺遭難化海龍。

### 香 煙

橫須賀市大松寺前住職 鈴木雷峰

